

いつ起こるか分からない災害に備えて



防災・災害復興の分野への女性の参画を進めましょう

災害発生時の経験を生かし、男女共同参画の視点を取り入れた防災・災害復興体制を確立するよう、政策・方針決定過程への女性の参画を進めましょう。

また、町内会等の地域コミュニティへの女性の参画を積極的に進め、男女がともに参画する地域の防災体制をつくりましょう。



防災訓練や学習会等を開催しましょう

性別や年齢を問わず、誰もが災害時に活躍できるよう、日ごろから地域や職場等で災害時における訓練や学習会を開催しましょう。防災・災害復興に対する共通の認識を持つことで、地域コミュニティの一員として重要な役割を担うことができます。

女性が地域防災の担い手として活躍できるように、日ごろから女性の参画に努めましょう。



男女がともに支えあう地域づくりに努めましょう

いつ起こるか分からない災害…

防災・災害復興時においても、男女が協働で対応できるよう、日ごろから、家庭や地域、職場等での男女共同参画を心がけ、男女がともに支えあうことができる安全で安心な地域づくりに努めましょう。

インギ
という時のために！

コンポイントアドバイス

突然発生する災害にも、あわてずに対応できるよう、いざ！という時の備えを、日ごろから心がけることが大切です。

まずは、防災用品のチェックから…



防災手帳を持ちましょう



防災手帳やカードには、家族の連絡先や健康保険証の番号など、必要なことを記入しておくことで安心です。

家庭や地域では、日ごろから避難場所や避難経路を決めておき、安全に非難できるように訓練しておくことが大切です。



発行 岩見沢市総務部市民連携室
(男女共同参画担当)
〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1-1
☎0126-23-4111 (内線 422)

企画・編集 いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議

女性の視点による 防災・災害復興のすすめ



このリーフレットは、東日本大震災や阪神淡路大震災から見えてきた諸問題を「災害の被害を受けやすい女性」「防災・災害復興の担い手としての女性」というそれぞれの立場から、災害時における避難所等での工夫や日頃の備えについてまとめたものです。

いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議・岩見沢市

あなたの地域で災害が起こり、避難所生活をする事になったら・・・

安全・安心・快適な空間を用意しましょう

避難所では、限られた空間に多くの人々が生活することになります。被災者にとって、安全で安心な空間を確保できるよう、様々な工夫をすることが大切です。



乳幼児のいる家族のために、授乳スペースや育児スペースを確保しましょう。



一人暮らしの女性や高齢者・障がい者・乳幼児のいる家庭など、被災者の状況に応じて間仕切りなどの配慮を行い、快適な居住スペースの確保に努めましょう。

安全・安心・快適な空間の確保

ほんの少しの工夫と優しさで、被災者のプライバシーが尊重され、女性や子どもの安全・安心が守られます。

女性や子どもの心身の健康を守るために、相談窓口を開設しましょう。
※過去の大震災では、女性や子どもへの暴力（ドメスティック・バイオレンスや性犯罪等）が増加したという調査報告があります。



困っていることはありますか？

男女別の更衣スペースを用意しましょう。
※女性用の更衣室には、鏡や女性用品を準備しておくことが便利です。



助かるわ

女性用の洗濯物の干し場を用意しましょう。



仮設トイレの設置については、女性や子どもの安全・安心に配慮した場所や通路を確保し、女性専用トイレの設置に努めましょう。

男女のニーズの違いを把握して対応しましょう

東日本大震災や阪神淡路大震災などから、災害下では女性がより被害を受けやすく、避難生活でも様々な困難に直面することが分かってきました。避難所等の運営については、被災者の声をよく聴き、男女のニーズの違いを把握して的確に対応できるような工夫が必要です。



被災者の声をよく聴き、安全で安心な環境づくりに心がけましょう。

- 避難所の運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- 避難所生活や将来の問題など、悩みやストレスを抱えている被災者のために、避難所内に各種相談窓口を開設しましょう。
- 生活者の視点に立ったニーズを把握できるよう、女性の意見を積極的に聞きましょう。
- 被災者が必要としている情報が、避難所のすべての人に正確に伝わるよう伝達方法を工夫しましょう。
- 高齢者や障がい者など、様々な困難を抱えている人に対する配慮をしましょう。
- 日常生活の中で女性がつくり上げてきたネットワークや、ご近所などの地域コミュニティを活用し、安否確認や避難所等での声かけを行いましょ。

みんなで一緒に作業しましょう

過去の災害発生時の経験から、男性は早い段階で職場へ復帰しますが、被災後の不便な生活環境のもとでは、家事や育児、家の後片付けなど、増大した家庭的責任が女性に集中することが明らかになっています。避難所や家庭、地域での作業等はみんなが協働で行うことが大切です。



- 食事の準備や後片づけ
- 支援物資等の配布
- ごみの処理
- トイレや洗面所など共有スペースの清掃
- 行政など関係機関との連絡
- 避難所や周辺の見回り
- 家の後片づけなどの復旧作業 など

作業のポイント

- 一人ひとりの個性や能力、才能・特技を活かしましょう。
- 一つひとつの活動（作業）については、性別にこだわることなく、男女が共に活動できるようにしましょう。
- みんなが作業を行うことができるよう、日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるように工夫しましょう。